



みやげ物の試作品について、外国人観光客に感想を聞きました＝京都市中京区で

小中学生が京都みやげ企画

しおりやカルタ アイデア商品

京都市の小、中学生六人が、外国からの観光客に喜んでもらえるみやげ物づくりに取り組んでいます。地元の商店街のことを知り、広い視野で考える力を養ってもらおうと、NPO法人のアントレプレナーシップ開発センターが企画。十一月二、三日には市中心部の新京極や寺町の商店街で外国人の人に売られているおみやげを調べ、オリジナル商品を考えました。

あまった着物の布を材料にしたしおり、地元の観光

名所をテーマにしたカルタなどを試作。外国人の人やみやげ物屋さんに見せて、感想を聞きました。しおりをつくった森田遊太くん（五年）らは、オーストラリア人観光客の「もうちょっと安いほうが買いやすいね」「女性向けには明るい色のしおりがあったほうがいいのでは」という話を聞き、熱心にメモをとっていました。

完成品は十一月二十三日に京都大学（京都市左京区）で開かれるイベント「バーチャル・カンパニー トレードフェア 2008」で発表、販売体験もする予定です。（清田 哲）